

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	専攻実技2	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	なし。参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	小野・青野・青木・MARI・澤田		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
<p>ヴォーカリストとしての個性を徹底的に伸ばし、高いクオリティーで表現できる作品制作を目指す。そのためには学生各自が目指すサウンドの探求のみならず、幅広い知識、様々なスキルが求められる。本授業では各専攻に分かれ各教員が個別に指導し、オリジナル曲の作成やライブに必要なパフォーマンスなどを指導する。また、他コース学生との、共作、アレンジ作業、演奏や歌の録音作業等のコラボレーションを積極的に実施することにより、柔軟な対応力、幅広い視野を身につける。</p>					
到達目標					
<p>学生各自がイメージするオリジナル作品の完成に向け、個性や歌唱力、パフォーマンス力の向上を目標とする。また、短時間でのレコーディング能力や基本的な音楽理論の学習、既存楽曲の分析により多様なメロディ、コード進行、リズムパターン、アレンジアイデアを生み出せる能力を身につける。前期にワンコーラス楽曲を1曲、後期にフルコーラス楽曲2曲の完成を目指す。</p>					
教育方法等					
授業概要	<p>1年生においては、8曲のPOPSの課題曲を用意し、自分のオリジナル曲ができるまでは課題曲を練習する。課題曲と並行してオリジナル曲の作成にも取り掛かる。各自のイメージを具体化したテーマを持った楽曲制作をし、講師はそのクオリティを上げるべく個別に指導する。他コース学生と共同での楽曲制作、歌や楽器の録音、エディットやミックス作業ののち、定期的に授業内発表をおこなう。各学生の個性、音楽経験、コラボレーション相手により様々な状況に直面するが、作業をしながらその都度必要なスキルを身につけていく。</p>				
注意点	<p>キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。USBメモリー、ヘッドフォン、変換アダプター、ノート、五線譜を持参すること。学生個人が所有するPC、スマートフォン、タブレットを用いた学習を行う際はその使用を適宜許可する。</p>				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	10%	試験と課題を総合的に評価する。		
	授業内発表	10%	授業時間内におこなう試聴会、内容について評価する。		
	提出物	50%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
授業計画(1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	オリエンテーション	部屋わけ、各部屋で課題曲決め			
2回	個別レッスン・練習課題曲song3-1	練習課題曲3を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。			
3回	個別レッスン・練習課題曲song3-2	練習課題曲3を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。			
4回	個別レッスン・練習課題曲song3-3	練習課題曲3を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。			
5回	個別レッスン・練習課題曲song4-1	練習課題曲4を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。			
6回	個別レッスン・練習課題曲song4-2	練習課題曲4を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。			
7回	個別レッスン・オリジナル曲2-1	プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音準備ができる。			
8回	個別レッスン・オリジナル曲2-2	プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の演奏ができる。			
9回	個別レッスン・オリジナル曲2-3	プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音ができる。			
10回	個別レッスン・オリジナル曲2-4	プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の編集ができる。			
11回	個別レッスン・オリジナル曲3-1	プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音準備ができる。			
12回	個別レッスン・オリジナル曲3-2	プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の演奏ができる。			
13回	個別レッスン・オリジナル曲3-3	プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音ができる。			
14回	個別レッスン・オリジナル曲3-4	プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の編集ができる。			
15回	まとめ	全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	専攻実技2	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイター	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	なし。参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	永田、杉本、樗木	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的					
サウンドクリエイターとしての個性を徹底的に伸ばし、高いクオリティーで表現できる作品制作を目指す。そのためには学生各自が目指すサウンドの探求のみならず、幅広い知識、様々なスキルが求められる。本授業では講義とともに各自cubaseで制作作業をするなかでそれらを身につけ、定期的な授業内発表により、締め切りに向けた自分なりの作業工程の組み立てを考えさせ、「人前で発表する」とはどういうことかを体感する。また、他コース学生との、共作、アレンジ作業、演奏や歌の録音作業等のコラボレーションを積極的に実施することにより、柔軟な対応力、幅広い視野を身につける。					
到達目標					
学生各自がイメージする作品の完成に向け、高いクオリティーでのアレンジ、音色選び、ミックスがスピーディーにできることを目標とする。そのためにショートカットや使用音色の把握等による素早いcubase操作、作曲編曲方法のヴァリエーションを習得する。また、基本的な音楽理論の学習、様々な楽器の知識の習得、既存楽曲の分析により多様なメロディ、コード進行、リズムパターン、アレンジアイデアを生み出せる能力を身につける。前期にワンコーラス楽曲を2曲、後期にフルコーラス楽曲2曲の完成を目指す。					
教育方法等					
授業概要	学生各自がcubaseを使用し、各自のイメージを具体化したテーマを持った楽曲制作をし、講師はそのクオリティを上げるべく個別に指導する。適宜、音楽知識、制作技術、その他弱点補強の講義もおこなう。他コース学生と共同での楽曲制作、歌や楽器の録音、エディットやミックス作業ののち、定期的な授業内発表をおこなう。各学生の個性、音楽経験、コラボレーション相手により様々な状況に直面するが、作業をしながらその都度必要なスキルを身につけてゆく。				
注意点	この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。USBメモリー、ヘッドフォン、変換アダプター、ノート、五線譜を持参すること。学生個人が所有するPC、スマートフォン、タブレットを用いた学習を行う際はその使用を適宜許可する。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	10%	試験と課題を総合的に評価する。		
	授業内発表	10%	授業時間内におこなう試聴会、内容について評価する。		
	提出物	50%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	前期完成曲の授業内発表	前期完成曲を学生全員で聞き、個別の弱点を把握できる。			
2回	録音、ミックスの基本的な知識	歌や楽器の録音、ミックスに必要な基本的な知識が習得できる。			
3回	構成について	楽曲の構成のパターンがわかる。			
4回	フルコーラスの作曲（3曲目）	モチーフから、骨組みを作ることができる。			
5回	ワンコーラスの骨組み作り(1)	セクションの骨組みから、ワンコーラスに発展できる。			
6回	フルコーラスの骨組み作り(2)	ワンコーラスの骨組みからフルコーラスの骨組みを作ることができる。			
7回	フルコーラスの完成	構成、アレンジを練り、必要に応じ歌、楽器等の録音作業ができる。			
8回	完成曲のミックスと提出	仕上げとしてブラッシュアップし、ミックスし、提出できる。			
9回	完成曲の授業内発表	完成曲を学生全員で聞き、個別の弱点を把握できる。			
10回	スピーディーな作曲（4曲目）	テーマを各自で決め、作業計画をたて、骨組みを作ることができる。			
11回	フルコーラスの骨組み作り	ワンコーラスの骨組みからフルコーラスの骨組みを作ることができる。			
12回	フルコーラスの完成	構成、アレンジを練り、必要に応じ歌、楽器等の録音作業ができる。			
13回	完成曲のミックスと提出	仕上げとしてブラッシュアップし、ミックスし、提出できる。			
14回	完成曲の授業内発表	完成曲を学生全員で聞き、個別の弱点を把握できる。			
15回	まとめ	1年間で学んだことが体系的にわかる。			

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	専攻実技2	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ギター専攻	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	適宜レジュメ・資料を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	岡	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的					
<p>前期授業を踏まえ、オリジナル作品を作ることに対応できるための、アレンジの基本となるギターの奏法やテクニック、知識を学ぶ。ギターの実技指導を受けながら、同時並行でヴォーカリストコース・サウンドクリエイターコース学生とのコラボレーションによって随時作品制作の完成度を上げていく。既存楽曲をコピーして演奏できるだけでなく、自身のアイデアでバックギタースタイルやギターソロのメロディづくりなど、オリジナル曲でのギターパートが発想できるようになる。</p>					
到達目標					
<p>オリジナル曲を完成させるにあたり、前期授業を踏まえ、ギターパートを自身のアイデアで創作し、演奏することができる。アーティストとしての作品が作れるための演奏能力に更に磨きをかける。バックギターの技術や歌を生かす演奏、リードシートのコードを読み解きながら、最適なコードポジション、テンションの活用や、カポタストを利用したオープンボウイングでの奏法等をベースとしながら、オリジナル曲を完成させる。レコーディングに対する知識を得ることや、他の楽器の演奏内容に注意して各パートを尊重しあえるようなプレイスタイルを獲得することを到達目標にしている。</p>					
教育方法等					
授業概要	<p>学生個々の個性を活かすことに留意しながら、グループレッスン形式で進行する。ヴォーカリストコース・サウンドクリエイターコース学生とのコラボレーションしながら随時作品制作も行っていく。「オリジナル作品制作」授業からオリジナル楽曲のメテリアルを受け取り、この授業で学んだギターアレンジの知識とアイデアを活かしてレコーディングを行う。仕上げた楽曲は「アンサンブル」授業でリハーサルを重ね、ライブで発表するための演奏力を向上させる。</p>				
注意点	<p>キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	提出物 <small>（成果発表 （口頭・実技）</small>	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	カッティング(1)	実践的なカッティング・パターンを理解し、弾ける。			
2回	カッティング(2)	学んだカッティング・パターンを自身のアイデアで発展させ、応用して弾ける。			
3回	ブルース・スタイル・ギター・ソロ(1)	ブルース・スタイルのギター・ソロについて音選びのポイントを理解し、ベーシックなフレーズが弾ける。			
4回	ブルース・スタイル・ギター・ソロ(2)	ブルース・スタイルのギター・ソロについて音選びのポイントを理解し、ベーシックなフレーズが弾ける。			
5回	ブルース・スタイル・ギター・ソロ(3)	ブルース・スタイルのギター・ソロをアドリブで弾ける。			
6回	オブリガート(1)	オブリガートについて理解し、シンプルなオブリガート・フレーズが弾ける。			
7回	オブリガート(2)	ダブル・ストップによる、3度や4度、6度のハーモニーによるオブリガート・フレーズが弾ける。			
8回	テンション・コード・ベーシック(1)	ベーシックなテンション・コードを基にしたシンプルなバックギタースタイル・パターンが弾ける。			
9回	テンション・コード・ベーシック(2)	ベーシックなテンション・コードを基にしたバックギタースタイル・パターンを自身のアイデアで発展させ、応用して弾ける。			
10回	4th Build Voicing コード	4度重ねによるコード・フォームを理解し、シンプルなバックギタースタイル・パターンが弾ける。			
11回	ボサノバ・スタイル・バックギタースタイル(1)	ボサノバ・スタイルのバックギタースタイルを理解し、ベーシックなパターンが弾ける。			
12回	ボサノバ・スタイル・バックギタースタイル(2)	ボサノバ・スタイルのベーシックなバックギタースタイル・パターンを自身のアイデアで発展させ、応用して弾ける。			
13回	ジャズ・スタイル・バックギタースタイル(1)	ジャズ・スタイルのバックギタースタイルを理解し、ベーシックなパターンが弾ける。			
14回	ジャズ・スタイル・バックギタースタイル(2)	ジャズ・スタイルのベーシックなバックギタースタイル・パターンを自身のアイデアで発展させ、応用して弾ける。			
15回	まとめ	全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	専攻実技2
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ベース専攻	開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実技	
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。			
担当教員情報				
担当教員	大寺 宙	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的				
エレクトリックベースの技能修得はもちろん、オリジナル曲を完成させることを最大の目的とする。デモ段階の楽曲（自作、他作を問わない）にどのようなベースラインを構築すればその楽曲の魅力を引き出すことが出来るのか、メロディやコード進行等を鑑みながら考察していく。特に後期はオリジナリティを高めるためのクリエイティブな内容に比重を置く。また音楽制作は他者との協働が不可欠であることを理解し、他コース学生とも積極的にコラボレーションを行いながらクオリティの高いオリジナル楽曲を制作する。				
到達目標				
自作、他作を問わず、その楽曲の魅力を最大限に引き出すようなベースラインのアレンジができるようになることを目標とする。ルート音だけでなく、コードトーンを意識したベースライン、メロディがよりドラマティックに聴こえるようなベースライン、バンドメンバーを安心させるような安定したベースライン等、様々な角度からベースパートの在り方について学んでいく。特に後期はベースリストには必聴といえる音楽史上重要な楽曲からその手法を学び自分の演奏に取り入れていく。同時にこれらを表現するためのフィジカル面の修得も欠かすことはできない。				
教育方法等				
授業概要	学生個々の個性を活かすことに留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。ヴォーカリストコース・サウンドクリエイターコース学生とのコラボレーションしながら随時作品制作も行っていく。「オリジナル作品制作」授業からオリジナル楽曲のマテリアルを受け取り、この授業で学んだアレンジの知識とアイデアを活かしてレコーディングを行う。仕上げた楽曲は「アンサンブル」授業でリハーサルを重ね、ライブで発表するための演奏力を向上させる。			
注意点	学生間のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する	
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	ハーフタイムシャッフルについて	1	「チェリー」をリードシートを見ながらハーフタイムシャッフル、コードトーンを意識したベースラインが弾ける。	
2回	ハーフタイムシャッフルについて	2	「Rosanna」をリードシートを見ながらハーフタイムシャッフル、コードトーンを意識したベースラインが弾ける。	
3回	ブルース進行について		ブルース進行を理解し、そのベースラインが弾ける。参考曲「Cross road」	
4回	ジャズブルース進行について	1	ジャズブルース進行を理解し、ルート音と5度を使って弾くことができる。参考曲「Billies bounce」	
5回	ジャズブルース進行について	2	ジャズブルース進行を理解し、4ビートで弾くことができる。参考曲「Billies bounce」	
6回	ジャズブルース進行について	3	ジャズブルース進行を理解し、ビリーブバウンスのテーマを弾くことができる。参考曲「Billies bounce」	
7回	ボサノバについて		ボサノバのパターンでベースラインを作ることができる。参考曲「イバネマの娘」	
8回	サンバについて		サンバのパターンでベースラインを作ることができる。参考曲「Triteza」	
9回	第1回から8回までのまとめ		第1回から8回までの手法を用いてオリジナル曲のベースパートを見直し、弾くことができる。	
10回	ベースのリフについて	1	曲のイメージを決定付けるような印象的なベースリフを考え、弾くことができる。参考曲「Let's grove」	
11回	ベースのリフについて	2	曲のイメージを決定付けるような印象的なベースリフを考え、弾くことができる。参考曲「I want you back」	
12回	スラップ奏法のリフについて	1	曲のイメージを決定付けるような印象的なベースリフを考え、弾くことができる。参考曲「Pow」	
13回	スラップ奏法のリフについて	2	曲のイメージを決定付けるような印象的なベースリフを考え、弾くことができる。参考曲「おしゃかしやま」	
14回	第10回から13回までのまとめ		第10回から13回までの手法を用いてオリジナル曲のベースパートを見直し、弾くことができる。	
15回	まとめ		全体のまとめ	

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	専攻実技2
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ドラム専攻	開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実技	
教科書/教材	なし			
担当教員情報				
担当教員	田原	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的				
<p>シャッフル、ハネ、スウィングについて正しく理解し、同時に技術習得のために新たなグリップやストロークを習得する。</p> <p>1 2/8ビートから始まり、3連符を基調としたシャッフルビートや4ビートなどの基本的なビートやシンコペーションについて学びながらも、「自分の弱点や苦手分野の理解・把握」、「個々の個性を伸ばす事」を常に意識して学ぶ。その結果としてバンドミュージシャン、サポートミュージシャン、スタジオミュージシャンなど、あらゆる形でのデビューでも現場での様々な要求に対応できる知識、技術を身に付けることをねらいとする。</p>				
到達目標				
<p>ドラムの実技に関して、以下の3点のスキルを獲得する事を到達目標とする。</p> <p>1.授業内で学んだビートやルーディメンツを自分なりに応用し、個性を活かしたアプローチを構築し、表現する事が出来る。</p> <p>2.今後あらゆるジャンルに対応出来るように、ジャンルごとのビートパターンやアプローチを理解し、即座に対応出来る。</p> <p>3.楽曲のイメージや、演奏環境を考慮し最適な音作り(チューニング)が出来る。</p>				
教育方法等				
授業概要	<p>学生個々の個性を活かすことに留意しながら、グループレッスン形式で進行する。ヴォーカリストコース・サウンドクリエイターコース学生とのコラボレーションしながら随時作品制作も行っていく。「オリジナル作品制作」授業からオリジナル楽曲のマテリアルを受け取り、この授業で学んだアレンジの知識とアイデアを活かしてレコーディングを行う。仕上げた楽曲は「アンサンブル」授業でリハーサルを重ね、ライブで発表するための演奏力を向上させる。</p>			
注意点	<p>キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する	
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画(1回~15回)				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	1 2/8ビートの習得(1)	12/8ビート、6/8ビートの基本パターンの習得と、解釈についてわかる。		
2回	1 2/8ビートの習得(2)	1 6分音符を絡めた1 2/8ビート、6/8ビートが習得できる。		
3回	シャッフルビートの習得(1)	シャッフルビートの基本パターンを習得し、8分ハネについてわかる		
4回	シャッフルビートの習得(2)	ゴーストノート絡めたシャッフルビートパターンを習得できる。		
5回	ハーフタイムシャッフルの習得(1)	ハーフタイムシャッフルビートを習得できる。		
6回	ハーフタイムシャッフルの習得(2)	ゴーストノート絡めたハーフタイムシャッフルビートパターンを習得できる。		
7回	レゲエパターンの習得(2)	レゲエで使用する基本パターンとアプローチを習得できる。		
8回	スリップビートについての理解	スリップビートの解釈について理解し、8分スリップ、1 6分スリップを習得できる。		
9回	レギュラーグリップの習得	レギュラーグリップでのシングルストローク、ダブルストローク、アクセント移動を習得できる。		
10回	4ビートの習得(1)	スウィングについて理解し、基本となるライドレガート、ハイハットレガートを習得できる。		
11回	4ビートの習得(2)	スネアでのコンピングパターンを習得できる。		
12回	4ビートの習得(3)	バスドラムでのコンピングパターンを習得できる。		
13回	4ビートの習得(4)	スネアとバスドラムを交えたコンピングパターンを習得できる。		
14回	4ビートの習得(5)	4ビート上でのキメ、シンコペーションアプローチを習得できる。		
15回	まとめ	全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	専攻実技2
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース キーボード専攻	開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実技	
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書：キーボードバックギンまる覚え、ジャズ無窮動トレーニング			
担当教員情報				
担当教員	堀越	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的				
次世代をリードするプロフェッショナル・キーボーディストになる上で必要となるものは、運指等のテクニックだけではなく、コード、スケール、リズム（グルーブ）を実践的に理解して演奏していくことである。この授業では、学生個々の音楽の方向性を考慮しながらも、ジャズの要素も積極的に導入しつつ演奏技術を習得していくが、同時に音楽史に残る名曲、名演奏のエッセンス、時代によって変化するポップ・ミュージックの本質に接する中で現代的センスを吸収させ、よりクオリティの高いオリジナル作品を完成することも合わせて目的とする。				
到達目標				
次世代型キーボーディストのモデルとして、Cory Henry、Robert Glasper、Jacob Collier を設定し、彼らの持つ演奏テクニックの完全な再現ではなく、彼らの持つJazz的要素、R&B的要素を理解し、自らの音楽性に生かしていけるキーボーディストを目指す。最終的（2年次終了時）には基礎的なJazzハーモニーおよびフレージングの定着を図る（同時に差異点を明らかにすることでRockやJ-POPなどにも対応する）が、理論的理解がまだそれほど深くないと思われる1年次においては音楽理論系の授業に先行させ、実践的な基礎理論や装飾音のニュアンス、グルーブといった、キーボード演奏に有効なものを学んでいくことを目標とする。同時にオリジナル曲の作曲、オリジナルアレンジの質を高めていく。				
教育方法等				
授業概要	学生個々の個性を活かすことに留意しながら、グループレッスン形式で進行する。ヴォーカリストコース・サウンドクリエイターコース学生とのコラボレーションしながら随時作品制作も行っていく。「オリジナル作品制作」授業からオリジナル楽曲の素材を受け取り、この授業で学んだアレンジの知識とアイデアを活かしてレコーディングを行う。仕上げた楽曲は「アンサンブル」授業でリハーサルを重ね、ライブで発表するための演奏力を向上させる。			
注意点	学生ではあっても「表現者」の一人としての積極的な授業参加を求めたい。授業中の私語や横柄な受講態度が望ましくないことは言うまでもないが、自分の精神を委縮させてしまえば十分以上の表現をすることはプレイヤーにとって難しい。アンサンブルないし音楽的コミュニケーションとは良好な人間関係と本質的に同義だと理解し、講師や友達と良好な関係を築くように努力すること。理由のない遅刻や欠席は認められない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備考	
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する	
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	前期内容の復習	長三和音の平行移動、多種コードへの変形、四和音、テンション、モーダル・スケールがわかる。		
2回	ブルース(1)	I7(or Im7)一発 (CissyStratなど)、I7(or Im7)-IV7コード上で、ブルージーにフレージングできる。		
3回	ブルース(2)	12小節ブルース（基本/Rock的/Jazz的）のコード進行についてがわかる。		
4回	ブルース(3)	12小節ブルース（主にRock的な進行で）のコード上で、ベーシックなブルース・フレーズを弾ける。		
5回	課題曲1(1)	『Chicken』：主に四和音を使った（時に9thを入れることを推奨）バックギンができる。		
6回	課題曲1(2)	『Chicken』：主に「B♭ブルース・スケール」「ブルース系装飾音+B♭ミクソ」でソロを作れる。		
7回	課題曲1(3)	『Chicken』：コード・バックギンやソロ・フレーズを更に豊かに拡張できる。		
8回	課題曲2(1)	『Georgy Porgy』(Eric Benet Ver.)：主に四和音を使ったバックギンができる。		
9回	課題曲2(2)	『Georgy Porgy』：コード、コードトーンを使ったフィルインを作れる。		
10回	課題曲2(3)	『Georgy Porgy』：Emブルース的に考えたフレーズでソロを演奏できる。		
11回	課題曲3(1)	『Feel Like Making Love』(D'angelo Ver.)：コード・バックギンを作れる。		
12回	課題曲3(2)	『Feel Like Making Love』：ブルース系スケール、ブルース系装飾音+各種スケールでソロが弾ける。		
13回	課題曲3(3)	『Feel Like Making Love』：バックギン、フィルイン、ソロ・フレーズの拡張ができる。		
14回	ロング・ソロへの準備	今までの曲などを使い、ロング・ソロを構成する諸要素について考えながら演奏できる。		
15回	まとめ	年間まとめ		